

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「ともに みとめあい おしえあい かがやこう 富岡」
【知】進んで学び、探求する子を育成します
【徳】お互いに認め合える子を育成します
【体】健康で安全な生活ができる子を育成します
【公】地域の人とともに生きる子を育成します
【関】様々な社会の変化の中、広い視野をもつ子を育成します

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<持続可能な社会の創造に貢献する力>

具体化した資質・能力

- 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 ○内省の習慣
○思考のための言葉の力 ○思いや考えを深化させる力
○情報を活用・選択する力
○自然や文化に感動する力 ○地域を愛する気持ち

中期取組目標

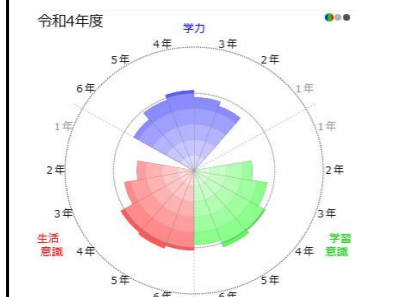
「活力と魅力あふれる学校をめざします」
・子ども一人ひとりが安心して気持ちよく生活・学習できる環境がとられ、楽しい学校生活が営まれています。
・子ども一人ひとりが学習の楽しさや喜びを実感できる授業づくりが進められ、思考力・判断力・表現力が高まっています。
・教職員のよさを生かしながら、協力支援体制の充実や指導力の向上、危機管理体制の確立が図られています。
・PTA及び地域との連携を密にし、学校・家庭・地域の教育力を生かし、地域に開かれた学校づくりが推進されています。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (生きてはたらく知) and 具体的取組 (①読書、スキル学習などの日常的な活動を継続し、知識、技能を習得できるよう意識した授業展開を図る。②研究テーマを「かかわり合い 認め合い 伝え合おうとする子の育成」とし、「とみおか150」を意識した活動を通して、学んだことを活用し、考え、表現する活動を設定する。)

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童の実態
生活・学習意識調査の結果を見ると、「学校での学習に進んで取り組んでいる。」と回答した6年生児童が約9割だった。また、85%の児童が「学習したことを、ふだんの生活の中で、生かして使おうと思っている。」、91%の児童が「自分の考えを、相手に分かるように伝えようとしている。」と回答した。学習に進んで取り組もうとしているが、学習した内容が、しっかり身に付いているとは言えない。
「ほとんど本を読まない。」の回答が約40%、横浜市平均と比べると12%程度低い。「1時間以上ゲームをしている。」が約70%、横浜市平均より10%程度多い。読書習慣がつかっているとは言えない。



(2)これまでの学校の取組状況
4月 年間計画、話し合い、決定
部会テーマ決定
6月-1月 各学年、専科 研究授業
2月 1年間振り返り、来年度計画

今年度の目標

かかわり合い 認め合い 伝え合おうとする子の育成
～ 自分の思いや考えを大切にす言語活動の工夫 ～

目標を実現するための具体的行動プラン

○スキルタイムなどを活用して、基礎、基本を身につける。(通年)
○読書活動、日記を書く、新聞記事の切り抜きなど、日常的活動を続ける。(通年)
単元計画や帯学習を生かして、次の力が付くように学習活動を工夫する。
低学年 友達との関わりを楽しみ、自分の思いをもつ。
中学年 比較することを通して、自分の考えをもつ。
高学年 文章を正確に読み取って、自分の考えを明らかにする。

4月 各学年のテーマ 話し合い、決定
5月 学習会
6月 「とみおか150」記念誌 各学年のページ 話し合い、決定
9月 「とみおか150」記念式典 各学年の発表 話し合い、決定

単元計画や帯学習を生かして、次の力が付くように学習活動を工夫する。
低学年 自分の思いを、友達などに伝える。
中学年 考えを友達と共有して、見方を広げる。
高学年 考えを伝え合って、自分の考えを広げたり深めたりする。

10月 「とみおか150」記念式典 各学年の発表 練習
11月 「とみおか150」記念式典
1月 各学年 学習の取り組み 報告会
2月 1年間の振り返り、来年度計画

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心) and 具体的取組 (①ペアなかよし交流を積極的に推進し、行事や学習活動にも異学年交流を取り入れ、異学年同士のつながりを高める。②Y-Pアセスメントを実施し、学年や学級の児童の実態や特徴をとらえ、よりよい集団作りに生かす。③児童会が中心となって行う人権週間や、平和教育などを通して、児童の心の育成に取り組む。)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関する児童の実態
年2回以上、実施している生活に関するアンケートから、全校児童の8割を超える児童が、「学校が楽しい」「自分のよさに気づいている」という結果が出ている。しかし、前期のアンケートと後期のアンケートを比較すると若干、各項目で自尊感情の低下が見られる。
各学年で「校内子ども会議」を行うことで、「いじめは絶対にしてはいけないこと」という、心情が育っている。また、児童会では、友達のよさを見つける活動についても年間を通して行っている。
(2)これまでの学校の取組状況
4月 学校のきまり・スタンダードの確認
5月 平和教育の実施
6月 第1回学校生活アンケート実施
Y-Pアセスメント実施
地域ふれあい清掃の実施
7月 校内子ども会議の実施
9月 第2回学校生活アンケート実施
10月 地域ふれあい清掃の実施
11月 人権週間実施
第3回学校生活アンケート実施
Y-Pアセスメント実施
12月 いじめ解決のための一斉アンケート実施
2月 第4回学校生活アンケート実施

※毎月の職員会議で児童の共通理解を実施

今年度の目標

「自分大好き！学校大好き！富岡大好き！」と言える子の育成
(自尊感情の向上・愛校心・地域連携)

目標を実現するための具体的行動プラン

○全教育活動を通して道徳教育の充実(通年)
いじめはいけないという意識を高めながら、自分と違う考え方を受け入れられる心も併せて育む。友達同士の関わり方を身につけたり、自分や友達のよさに気付いたりする場を意図的に設定し、日常的によいところを言葉で言ったり言われたりすることで自己有用感を高めていく。
○ペア活動の充実(通年)
異学年交流の活動を年間計画に位置づけ、意図的、計画的に取り組む。
○家庭や地域との連携(通年)
多くの人と関わり、安心感や自己有用感をもてる場を増やすことで自尊感情を高めていく。
○Y-Pアセスメント・生活に関するアンケートの実施(前期)
一人ひとりの児童や学級風土の実態を客観的につかみ、横浜プログラムなどを活用して、自己肯定感や学級での有用感を高めていく。
○平和教育の推進
横浜大空襲や富岡空襲について知り、国際平和について「今、自分ができること」を話すなどして、「平和」の大切さについて考える。

○人権月間の取組
児童会活動として人権委員会(スマイル委員会)を設置し、人権についての概要やユニセフの活動について発表を行う。また、「いいね！でいっこ大作戦」という活動を通して、友達のよさを見つけられる自分づくりの取組を全校で行う。

○Y-Pアセスメント・生活に関するアンケートの実施(後期)
前期で行ったY-Pアセスメントや生活に関するアンケートを後期でも行い、児童一人ひとりの変容を見取り、児童の実態に即した指導をしていく。

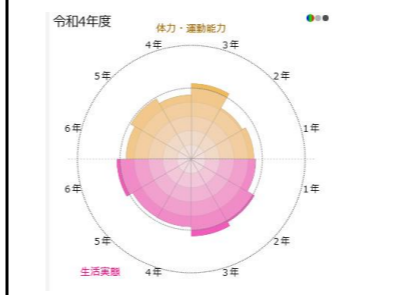
○校内子ども会議の実施
各学年の児童に合ったテーマについて話し合う。「いじめ」は絶対に許されないという気持ちで、互いを認め合いたれども安心して生活できる子ども社会を作ろうとする富岡の子どもを育む。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体) and 具体的取組 (①児童委員会が中心となり、ドッジボールや長縄、走力を高めるための集会を計画・実施し、楽しく体を動かすことができる機会を設定する。②健康重点テーマに沿ったクラス独自のめあてや取り組みを決め、年間を通して全校で健康づくりに取り組む。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体にかかわる児童の実態
○全国体力運動能力運動習慣等調査によると、体力運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている児童の割合は男女ともに約80%であった。
体育の授業は楽しいと答えた児童は、男子88.9%、女子62.8%であった。
○市体力・運動能力調査では、本校はほとんどの学年で市の平均を下回る結果が出ている。「体を動かすことは好きですか」という質問に対し、「好き」と答えた児童は約60%であり、体を動かすことが好きになり、様々な運動に親しむことが、基礎体力の底上げにつながるかと考える。



(2)これまでの本校の取組状況
○体育科では、一人一人が自己の課題を見付け、その課題を解決できるように学習の場を選んだり、友達と教え合ったりする授業づくりを実施してきた。
○パワーアップ委員会が中心となり、ドッジボールや長縄に親しむことができる集会を行ってきた。
○健康委員会やランチ委員会による、健康や食育に関する情報の発信に取り組んできた。

今年度の目標

心と体の健康を守ることに関心をもち、望ましい健康習慣を身に付け、進んで健康づくりに取り組もうとする態度を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

○学校保健委員会の取組で学校全体の健康に関する意識を高める。
○学校生活目標や交通安全月目標を月ごとに定め、保健や安全に関する意識を高める。(通年)
○パワーアップ委員会を中心としてドッジボール大会や長縄集会を計画し、学校全体での体力の向上を図る。(通年)
○ランチ委員会では給食時にランチタイムズを発信し、食への関心を高める。(通年)
○健康委員会では、健康的な生活習慣を推進する取り組みを企画する。
○体育科では、一人一人がめあてをもって活動できるよう、教師が授業内容や学習カードを工夫し、児童が自分の考えたことを表現できるようにしたり、互いに見合って学習を進められるようにする。(通年)
○各教科で食育との連携を図り、体力向上や健康的な生活習慣に結び付ける。(通年)
○日常的な健やかな体に関わる情報を、保健日より家庭に発信する。(通年)

○ランチ委員会による給食週間の取組により、食育との連携を図る。
○パワーアップ委員会による「タッチダッシュ大会」を通して、走力を高める意識をもてるようにする。(後期)
○学校保健委員会では、1年間の取組の成果や課題について振り返り、自己肯定感を高めるとともに、運動や健康について自らよくしていこうとする態度をほぐす。